

二〇二六年度 トキワ松学園中学校入学試験

適性検査型 適性検査ⅠB 問題用紙

受験番号

開始と同時に受験番号を
書き入れなさい。

問題1

次の【あ】、【い】の文章、さやかさん、けんたさん、あかりさんと山本先生の会話文を読んで、問題に答えましょう。

あ

二ヶ領用水は、神奈川県川崎市を流れる人工用水路で、江戸時代初期の慶長年間（1600年代初頭）に整備された。多摩川の水を引き入れて、川崎宿をふくむ広範な地域に農業用水を供給することを目的として築かれた。名称の「二ヶ領」とは、「稲毛領」と「川崎領」の二つの領域を潤したことに由来する。この用水は、当時の農業の発展に大きく貢献しただけでなく、地域の産業にも深く関わっていた。

その一例が藍染めとの関係である。藍染めとは、藍という植物から得られる天然の染料を用いて布や糸を青色に染める伝統的な染色方法のことである。藍にふくまれる成分には抗菌作用があり、昔の人々は藍で染めた布を衣類や作業着など広く用いていた。江戸時代から明治時代にかけて、川崎でも藍の栽培や藍染めが盛んに行われていた。藍染めには大量のきれいな水が不可欠であり、二ヶ領用水はその水源として重要な役割を果たしていた。用水の水は清らかで流量も安定していたため、藍の発酵工程や布の洗浄工程に適していたとされる。町の名前として残る「紺屋町」も藍染め屋が近くにあったことに由来しているという説もある。

自然の染色、とりわけ藍染めは、化学染料とは異なり、植物由来の染料を時間をかけて発酵させ、その色素を繊維に染みこませるという、

手間と技術を要する工程で成り立っている。藍を発酵させて「すくも」という染料にし、灰汁や石灰を混ぜて染液をつくり、職人の手により布を何度も浸して空気にさらすことで、徐々にあざやかな藍色が現れる。これはまさに、自然との対話の中で得られる色であり、人の技と時間が生み出す結晶である。

また、『荀子』という、昔の中国の書物の「勸学篇」に「青は藍より出でて藍よりも青し」ということわざがある。藍という植物から抽出される青い染料が、元の藍の葉の色をこえて、より深く美しい青を生み出すことを意味している。この言葉は、単に色の話にとどまらない人生哲理としても引用されてきた。他にも藍に関係することわざとして「紺屋の白袴」という言葉がある。

藍染めにおけるこの紺色は、単なる物理的現象ではなく、自然との調和、経験の蓄積、技術の継承という、人間の営みそのものを象徴している。紺色は、自然があたえる色でありながら、人の手によって初めて完成される色である。だからこそ、藍の青は深く、そして強い。このようにして紡がれる藍の世界は、時代をこえて、新しさと深さをもつてわたしたちの感性にうったえかけてくる。そして今もなお、その青は、藍より出でて、藍よりも青く在り続けている。

川崎市における養蚕業は、江戸時代から昭和初期にかけて多摩川沿いの農村地帯を中心に広まり、地域の経済と暮らしを支えていた。特に明治時代以降、生糸は日本の主要な輸出品として国家の経済を支える柱となり、川崎でも多くの農家が蚕を育て、繭を生産し、製糸場や市場に出荷していた。

生糸は、蚕が繭を作る際に分泌するフィブロインというタンパク質で構成され、独特の光沢としなやかさを持つ。この天然素材は、古くから高級織物の原料として重宝されてきた。さらに注目すべきは、その生分解性である。生糸は自然界の微生物によって時間をかけて分解され、土にかえるという特性を持つ。つまり、地球環境に負荷をかけずに循環できる素材なのである。

これに対して、二十世紀半ば以降、世界中で普及した化学繊維、すなわちナイロン、ポリエステル、アクリルなどの合成繊維は、石油を原料とする非生分解性の素材である。これらの繊維は安価で大量生産が可能であり、速乾性や耐久性といった機能性があるため、現代の衣料品産業では広く使われている。しかし、その一方で、使用や洗濯を通じて発生するマイクロファイバーが海洋に流出し、マイクロプラスチックとなり、健康被害との関連も指摘されている。

また、化学繊維の生産過程では、多量のエネルギーを消費し、温室効果ガスや有害物質を排出するため、地球温暖化の一因ともなっている。廃棄後も自然に分解されることがなく、焼却処分にたよるしか

いが、その際にも二酸化炭素などの温室効果ガスが発生する。これらの環境負荷を考えると、現在の繊維産業の在り方は持続可能とはいえない。

そうした中で再び注目されているのが生糸をはじめとする天然繊維である。生産から廃棄までのサイクル全体において、環境への負荷がきわめて低い。加えて、着心地や風合いの面でも高く評価され、近年ではサステナブル・ファッションとして、生糸や絹製品を取り入れるブランドも増えている。養蚕の歴史や技術、そしてその精神は、環境と共生する未来型の素材づくりへのヒントとなる。持続可能性が問われる現代において、地域資源を再評価し、生糸の価値を再発見することは、川崎のみならず日本全体にとって意義深いことだと言える。天然素材へのカイ帰^あは、決して時代に逆行する動きではなく、地球と人間の共生を考える上で（一）的な選択である。自然と共存する知恵と文化は、持続可能な社会を築くために、未来に伝えていく必要があるのだ。

次の文章は、^あ、^いの文章を読んだ後、さやかさん、けんたさん、あかりさんと山本先生が話し合いを行った会話文です。

あかりさん…先生、二ヶ領用水は私たちが育てている蚕とも関係が深いんですね。急に蚕が身近に感じてきました。

山本先生…そうですね。みなさんの育てている繭もずいぶん立派な

大きくなりましたね。蚕を育て始めてから3週間くらいですが、世話してみて感じたことはありませんか。

さやかさん…小さい体なのによく食べますよね。えさの桑くわの葉を入れると、次の日にはもう半分以上なくなっています。

けんたさん…静かだけれど、前足で桑をしっかりとつかんで、むしゃむしゃ食べていて、一生懸命生きている感じがします。動きは地味だけれど、すくすく成長しているのが見ていてわかり、面白いです。

あかりさん…わたしは繭ができた時、感動しました。白くてふわふわで、こんな小さな生き物があんなにきれいなものを作るなんて。

山本先生…みんなよく観察していますね。この繭からとれるのが絹です。着物などの高級品にも使われています。

さやかさん…わたし、インターネットで調べていたら、絹は自然にもどるって書いてありました。

山本先生…その通り。生分解性繊維と言います。でも今、わたしたちの服の多くは化学繊維であるポリエステルなどできているんだ。これらは石油から作られていて、ほとんど分解されないんです。

けんたさん…分解されないとうなるのですか。

山本先生…洗濯のたびにマイクロプラスチックが流れ出て、川や海にたまり、魚の体に入ってしまう、（二）わ

たしたちの体にも取り込まれていきます。これが、今、世界中で問題になっています。

あかりさん…見た目は同じような服でも、素材がそんなにちがうなんて。おどろきです。

山本先生…みなさん、ちよつと自分の服のタグを見てみましょうか。どんな素材が使われているかな。

けんたさん…ぼくのセーターは綿が40%で、ポリエステルが45%って書いてある。

あかりさん…わたしのTシャツは綿100%でした。

さやかさん…わたしのトレーナーはポリエステルが2割で、残りは綿でした。別の生地タグに書いてあったのですが、ナイロソって何ですか。

山本先生…ナイロンとは主に石油を原料とした世界初の合成繊維のことです。さまざまな研究が進んでいますが、これも一般的には自然に分解されないとされています。

けんたさん…ぼくのコートはナイロンとポリエステルが同じくらい入っていて、化学繊維だけで6割程度でした。綿は3割くらいであまり入っていません。

さやかさん…わたしのシャツは生分解性のある素材は化学繊維の4分の1しか入っていません。

あかりさん…わたしのパーカーはナイロン90%だわ。綿は10%しか入っていないわ。完全に化学繊維だ、これ。

山本先生…わたしのジャケットは麻が50パーセントで、綿とナイロンが20%ずつでした。ポリエステルやナイロンは便利だけれど、自然にもどらず、燃やすと有害なガスも出ることがあるのです。一方、絹や綿、麻のような動物や植物由来の自然素材は、土にかえりますし、染めるときにも自然由来の染料を使えば環境にやさしいですね。

さやかさん…そういえば、草木染めっていう昔ながらの染色方法がありますね。

あかりさん…わたしは藍染めのストールを持っています。自然の色って、見ていると落ち着くんですよ。

けんたさん…でも、そういうのって高いし、手間もかかるし。みんなが全部それにするのは現実的じゃない気がする。

山本先生…たしかに全部をすぐ変えるのは難しい。でも、「何を選ぶか」「どう使うか」は自分で決められます。少しでも環境に配慮^{はいりょ}された素材を選んで、長く使う意識を持つことが大事なのですね。

あかりさん…服って毎日着るから、そういう意識を持つだけで影響は大きくなりますよね。

さやかさん…わたし、今度古着屋さんに行ってみようかな。あとは、使わなくなったTシャツを草木染めで染め直してみるのも楽しそう。

けんたさん…じゃあ、ぼくも家の服のタグを見てみようかな。見た目

じゃ分からないけれど、中身って意外と重要なんだな。

山本先生…いい気づきだね。こうやって身近なものから環境を考えることが、これからの社会ではとても大切になります。蚕の飼育も未来へのヒントなのです。

【いずれも適性検査のために作成した文章】

注1 マイクロファイバー…非常に細かい合成繊維

注2 サステナブル・ファッション…衣服の生産から着用、廃棄に至るまで環境に負担がかからないように考えて作られた、未来の人や地球にもやさしいファッション

(1)——㊸「カイ帰」とありますが、この「カイ」と同じ漢字を使う熟語を次の1～4の中から一つ選び、番号で答えましょう。

- 1 カイ合に出席する
- 2 憲法のカイ正
- 3 カイ転木馬
- 4 カイ適なくらし

(2) (一) にあてはまる熟語として最も適切なものを次の1～5の中から一つ選び、番号で答えましょう。

- 1 必然 2 偶然 3 想像 4 否定 5 特例

(3) (二) にあてはまる言葉として最も適切なものを次の1～4の中から一つ選び、番号で答えましょう。

- 1 まじまじと 2 はしばしに 3 せつせつと 4 ゆくゆくは

(4) ①「自然との対話」とありますが、それはどのようなことですか。次の1～4の中から最も適切なものを一つ選び、番号で答えましょう。

1 何かを作り出す過程においては、自然環境をこわさないような配慮を念頭に置いて作る必要があるということ。

2 その時々によって変化する自然の風合いや色合いなどを考えて調整しながらいろいろな条件で試し、作っていくということ。

3 天候がどうなるかわからない中で作る必要があるので、常に天気予報を確認して製作日程を決めなければならないということ。

4 自然の中に自生している植物を使用するので、その植生や分布をよく理解して採取する必要があるということ。

(5) ②「単に色の話にとどまらない人生哲理としても引用されてきた」とありますが、それはなぜですか。次の1～4の中から最も適切なものを一つ選び、番号で答えましょう。

1 この言葉は、藍からとれる青色の美しさを表しており、色の話を用いることによって、すべての人がそれぞれの個性や人格を持っていることが素晴らしいことであるということをとたとえており、他者を敬って生きることの大切さを述べているから。

2 この言葉は、植物から採取される色が植物そのものよりも青くなることから、弟子が師を上まわる存在へと成長することを意味し、単なる色の話をこえて、人間の成長における可能性と努力の重要性を示す言葉としても広く引用されてきたものであるから。

3 この言葉は、植物の藍からとれる色は一定の青さを示すという意味で、同一の色を同じ興味や関心を持っている集団にたとえており、それらの人々と交流することによって、影響を深く受けるということとを意味しているものとして引用されてきたから。

4 この言葉は、藍という植物からとれる青色は大変繊細で少しの温度の違いでも美しい青が出ないということから、人に接する時にはその人に合った言葉を用いるべきだという意味として使われ、よい人づきあいができるための人生の教訓として引用されてきたから。

(6)——③「紺屋の白袴」と似た意味のことわざを次の1～4の中から一つ選び、番号で答えましょう。

- 1 朱に交われれば赤くなる
- 2 トンビが鷹を生む
- 3 虎の威を借る狐
- 4 医者の不養生

(7) [イ]の文章をよく読んで、「化学繊維」の欠点をまとめましょう。

(8) [ア] [イ]の文章と会話文を読んで現在、「生糸」が見直されている理由として最も適切なものを次の1～4の中から一つ選び、番号で答えましょう。

- 1 焼却処分しても二酸化炭素が出ず、環境を破壊しない材料でできているから。
- 2 マイクロプラスチックという非常に細かい粒子に分解されるので、環境への負担が少ないから。
- 3 かんたんに生産でき価格も安いわりに、肌触りが良く化学繊維に似ているから。
- 4 微生物によって分解されて自然にかえるので、環境にやさしい素材だといえるから。

(9) 次のア・イの内容はだれの何のことですか。次の1～8の中から最も適切なものをそれぞれ一つずつ選び、番号で答えましょう。

ア 化学繊維が綿の二倍程度入っていることがわかったもの
イ 次のタグがついていたもの

麻	12%
ナイロン	39%
ポリエステル	41%
綿	8%

- | | |
|-------------|------------|
| 1 さやかのトレーナー | 2 さやかのシャツ |
| 3 先生のジャケット | 4 けんたのコート |
| 5 けんたのセーター | 6 あかりのストール |
| 7 あかりのTシャツ | 8 あかりのパーカー |

問題2

は次のページにあります。

問題2 次の文章を読み、問題に答えてみましょう。

あなたは合唱コンクールでクラスの合唱曲の指揮者^{しきしや}に任命されました。クラスで曲を決める時に A「怪獣^{かいじゅう}のバラード」 B「流浪^{るろう}の民^{たみ}」という二つの候補が出ました。A は歌ったことのある人も多く、クラスのメンバーが簡単に歌えるレベルの曲で、歌っていて楽しい曲ですが、過去のコンクールの結果を見ると高得点がとりづらい傾向^{けいこう}にあります。一方で B の曲は難易度が高く、かなり練習が必要ですが、完成できれば優勝^{ゆうしょう}の可能性があります。この二曲をめぐって投票を行いました、ほぼ同数で多数決では決めることはできませんでした。

問題

あなたは指揮者としてみんなが納得^{なっとく}する選曲をするためにどのような方法で決めますか。曲を決める前にやらなければならないことがあるとしたらそれは何かを書き、その上で自分はどのような行動をとりますか。その理由もふくめて書きましょう。

[注意事項^{じこう}]

- 解答用紙に縦書きで書きましょう。
- 解答用紙に 300 字以上 400 字以内で書きましょう。
- 原稿用紙^{げんこう}の正しい用法で書きましょう。また、漢字を適切に使いましょう。
- はじめに題名などは書かず、1 行目、1 マス空けたところから書き、自分の名前は、氏名らんに書きましょう。
- 3 段落以上の構成で書きましょう。
- 句読点（、）やかっこなども 1 字に数え、1 マスに 1 字ずつ書きましょう。また、段落を変えたときの残りのマス目も字数として数えます。

